

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401097		
法人名	有限会社 中山メディカルサービス		
事業所名	グループホーム おあしす ありた		
所在地	福岡市早良区有田6丁目2-5 (電話) 092-801-1122		
自己評価作成日	令和 2 年 2 月 8 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用料を生活保護や低所得者の方でも安心して入居できる価格に設定しています。近隣の保育園、小学校、中学校、高校との交流・福祉学習の場を積極的に提供する事により、施設を地域の皆様に知ってもらうきっかけ作りや、入居者の方が子供たちと触れ合える機会を作っています。また、小学校PTAの連携として「子供110番」の登録を行ったり、AEDを設置したりと地域の皆様に少しでも貢献できるように日々力を入れています。早良区・西区で発足したいとの会への参加等を通し他施設とも交流を図り、情報交換の場を作っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 2 年 2 月 26 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者が、のんびりと生活ができる介護を目指した事業所である。特に良い点は、管理者と職員の仲が良い所である。また、介護と医療連携の良さが特徴である。母体法人が整形外科医院のため、毎週土曜日の午後は、リハビリの専門家と、設備が整っている医院への送迎が行われており、事業所内でも自発的にリハビリに励む利用者の姿が見られる。毎日レクリエーションが行われ、日本文学の名作を職員と利用者が朗読する取り組みがなされている。遠方の家族を始め、介護関係団体等との横型のネットワークがライン等でリンクされており、介護に活かされている。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流を組み込んだ理念を作り、毎朝申し送りの後にスタッフで唱和し、意識付けを行う。	事業所独自の理念の中に、地域のさらなるネットワーク化を願う視点を有している。毎朝、朝礼時に理念を唱和し、管理者は理念の実践について、必要時、職員に対して、意識づけが出来るような助言をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園との交流や、近隣の教育機関の社会科学習、ボランティアなどを積極的に受け入れている。また、地域の室見川の清掃活動に参加している。	保育所、小学校、中学校、高校と遊戯、社会学習、コーラスを通じて交流が行われている。室見川の清掃活動や認知症啓発活動にも参加している。デイサービスの利用者がグループホームに立ち寄っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、包括支援センターや民生委員の方に認知症について話す機会を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、スタッフ、に参加して頂き、利用者の状況や行事、スタッフの状況等報告を行い、困難事例が出た場合等助言を頂いている。そこで出た意見をスタッフと共有しサービス向上に努めている。又空室状況の報告をこまめに行う。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。利用者の現状を報告し、評価への取り組みも話し合わせ、介護の向上に活かされている。インフルエンザ対策の強化への提言がなされ、加湿器と空気清浄機の有効な場所への設置がなされている。民生委員を通じて地域の代表者に運営推進会議への参加を働きかけている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や保護課との関係。市主催の研修には出来る限り参加する様にしている。	グループホーム協議会に参加して、行政と定期的に会合を開き、意見交換が行われている。行政とは緊密に連絡しあい、現状報告と相談がなされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加し、ユニット会議にて周知を図る。又、マニュアルをいつでも見れるところに置いている。ユニットでは見守りの強化、声掛けの工夫にて身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	身体拘束は全面禁止する旨契約書にうたっている。見守りの徹底で身体拘束をしない介護を実践している。身体拘束委員会を設置して機能している。内部、外部、伝達研修も行われている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に出来るだけ参加し、研修内容を持ち帰りユニット会議にて他職員にも説明する。又、ユニット会議や毎日の申し送りにてケアについて話し合い虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に出来るだけ参加する。又、必要な際には関係者と話し合い支援している。	人権擁護に関するテキスト、パンフレット、研修記録、報告書が整備されていない。	制度に関して、利用者や家族に説明できるように、テキスト、パンフレット等を整備して欲しい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、重要事項の内容、グループホームについての説明を詳しく行い、質問等に答える時間を設けて、納得の上署名、捺印を頂いている。料金改定や内容に変更があった際には文書、面会時、電話にて説明行う。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、家族との情報交換、コミュニケーションを密に図り関係づくりを行う事で意見を言いやすい雰囲気づくりを行っている。又、意見を頂いたらすぐに職員で共有し対応する。又契約時に苦情相談窓口の説明を行ったり、廊下やユニット内に介護保険サービス苦情相談窓口のポスターを貼って意見を表せる様に配慮している。	利用者、家族は管理者、職員に忌憚なく意見や思いを述べるができる関係である。事例として、球場での野球観戦、口座を有する銀行への送迎と付き添い、各種ショッピング、希望する食事処への飲食等がある。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけで決めずに、ユニット会議や申し送りにて職員の意見を聞きだし、運営に反映させるようにしている。	自己評価は、職員全員の意見を聞いて作成されている。管理者も勤務のローテーションに加わっており、現場でその都度、職員の意見、提案を聞き、実現可能な案件については、即応できる体制をとっている。調理用具、レクリエーション、介護方法等多くの分野にわたり、意見や提案を運営に反映している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を行う。その際は自己評価や面談を通し、日々の実績を評価し努力が反映されるような制度を設けている。又、面談にて意見を聞き改善できるところは改善し、やりがいを持って働けるように努めている。実力にあった研修や、役付けを行う事で向上心をもちやりがいを感じて働けるよう環境作りを行う。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフ募集・採用については、年齢や性別は判断材料から外し、本人のやる気や能力や人柄で判断する。働く職員にも研修に参加させたり、意見を取り入れたり挑戦したい仕事があれば可能な限り行わせるように配慮する。	職員の年齢構成は20歳～70歳で男女は同じ比率の構成であり、年齢性別による採用の排除は見られない。定年はあるが、一年更新で延長可能である。教育訓練に関しても、法人からの援助がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は出来るだけ人権の研修に参加し、ユニット会議にて他職員にも伝える様になっている。	倫理委員会を立ち上げており、議事録を掲示場所に張り付けて、職員への周知徹底を図っている。人権教育、啓発活動をより実りあるものにするために、人権週間、人権センター、人権擁護委員を活用する方向で検討している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修があれば情報を掲示し希望者には力量に合わせた研修に参加させる。その際にはなるべく勤務扱いにする事で、働きながら学びやすい環境を作っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加する事により、そこで知り合った同業者と情報交換を行う。近隣の施設の行事にも積極的に参加したり、西区・早良区のいとの会にも出来る限り参加する様に行いたい。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人と面談を行ったり、家族や関係者に話を聞き情報収集を行い、本人のニーズの把握に努めている。入居初期にはコミュニケーションを重視し、信頼関係作りや環境に馴染めるよう配慮し、安心した生活が送れる様に努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や、契約時には家族の意向を聞き、サービスを開始するうえでの要望や不安などを聞き、関係作りに努める。又、面会時にはコミュニケーションを図り情報交換を行う事で、信頼関係を築き良い関係作りが出来る様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	常に状態観察、情報収集に努めその時必要なサービスを見極め支援できるように努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の立場に立って寄り添う介護を行うように心がけ信頼し合えるような関係づくりに努めている。日頃より利用者と共に家事、食事、レクリエーションを行う事で家庭的な雰囲気づくりを重視し暮らしを共にする者同士として過ごせるような関係づくりに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等で本人と家族が触れ合えるきっかけ作りを行い、面会時の情報共有、こまめな状況報告等で共に本人を支えていける様な関係作りに努めている。不定期だがお便りを発行し近況報告や写真を載せ郵送して行きたい。（入居時の説明にて了承頂く）		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時には、人目を気にせずゆっくり話が出来る様に配慮する。行きたい場所が有れば家族の協力、了解を得て可能な限りかなえられる様に支援する。	職員は、入居前に利用者の馴染みの関係を聞くようにしており、入居後も友人とのつながりを持てるように支援している。また、編み物をされる方で、行きつけのお店へ案内するなどの支援も行われている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を把握し、トラブルにならない様に配慮しながら、レクや日々の会話を通し、なじみの関係作りが出来る様にきっかけ作りを行う。又難聴の方には間に入り会話の橋渡しを行いコミュニケーションがスムーズに行くように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、行事へのお誘いや年賀状、面会を行う事で関係が途切れない様に配慮し、必要な時には相談に乗ったりして行きたい。。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションを通し、希望・意向の把握に努めている。また、聞き出せた希望は可能な限り叶えられるよう支援し、困難な際には本人の立場に立って本人本位で検討する。	基本的に、職員は日々の関わりの中で利用者の思いに耳を傾けている。意思表示が困難な方に対しても、問いかけを工夫し、できる限り本人の意思を尊重するようにしている。また、行動パターンから読み取り、支援することもあり、その情報は職員間で共有しスムーズな支援に繋げている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネから生活歴、経過等の情報を収集し、把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、一日の過ごし方、心身状況、ADLの現状把握に努め、ケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日頃のコミュニケーションから意見を聞きだし計画書作成に活かしている。家族とは、面会時や電話にて話す機会を作り意見を聞く。医療機関とも連携を図り意見を聞き計画書に取り入れる。	計画作成担当者を中心に、それぞれの専門職と連携を図り、介護計画が策定されている。運営主体は診療所であり、医師や看護師、理学療法士との連携もスムーズである。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子ケアについては経過記録に記入し、意見や変化があれば申し送り帳にも記入し職員間で共有し実践に活かす。また、月一回の会議だけではなく 普段から一人ずつ意見を出し情報共有し計画書見直しに活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より本人、家族とのコミュニケーションを重視し、その時々ニーズに合わせ柔軟な支援を行えるように心掛けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の往診、訪問理美容、近隣の教育機関の訪問の受け入れ、公民館のサークルの出し物の受け入れなどを取り入れ安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する馴染のかかりつけ医を受診する事を大切に、受診出来るように支援している。かかりつけ医との情報交換を行い関係作りに努めている。また、病状に合った医療機関の提案を行う事う様に心掛けるはいる	運営主体である診療所や協力医療機関の医師が診ることが多いが、希望や状態に応じて柔軟に対応されている。受診時は、必ず家族と連絡、相談を行っている。また、家族の都合が悪いときは事業所で適切な医療が受けられるようにしている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に何かあれば報告を行い。また、急変などには24時間連絡が取れるようになっている。往診時には、対象利用者の状況報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との情報交換、連携を密に図り入院した際にも安心して治療が受けられるように配慮している。入院時にもホームでの状況を添書、口頭にて報告を行い、入院中の情報交換をこまめに行うようにして早期に退院出来る様に対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时、申込み時、契約時に、医療行為が出来ない事、事業所に出来る事を十分に説明し納得して頂いた上での入居となっている。（重度化の方針という冊子あり）また、重度化した際には、本人や家族、主治医と話し合い方針を決めている。	契約時、事業所の方針を説明している。入居後は、状況に応じて、話し合いの場を設けている。過去に看取りをされたケースもあり、できる限りホームでの生活が継続できるように支援している。状態によっては地域の協力医療機関と連携している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員を受けている。又、定期的に避難訓練を行い、その際応急手当の勉強会を行う時間を設けている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を行っている。	定期的に火災や災害時の避難訓練を実施している。ユニットの管理者は応急手当普及員講習を修了しており、緊急時の対応に備えている。非常用食料や飲料水、持ち出し備品等も事業所内に備えている。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者人格の尊重を重視し、それを損ねないような声掛けをそれぞれ心がけている。又、プライバシー保護にも十分な配慮をするよう心掛ける。ユニット会議等で話し合いそれぞれの言葉かけや対応を振り返る時間を設けている。	職員は接遇について研修を受けており、尊厳のある対応やプライバシー保護の観点からも気をつけて対応するようにしている。排泄の失敗などがあっても、さりげなくトイレへ案内するなど、羞恥心に配慮し、介護を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も必ず職員が決めるのではなく、本人の希望や意向を聞き、出来る限りそれを最優先させる。自己決定の出来ない方は、日頃の状態から読み取り対応する様にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた介護をする様にしている。希望があればその日の日勤者で話し合い、柔軟に対応するようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は出来るだけ本人に選んで頂く。理美容時には本人の希望する髪型になるよう配慮する。衣類の購入時には一緒に行き好みのものを選んで頂く。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方が出来るお手伝いは行ってもらっているが、食事の内容に関しては業者に委託していることもあり お好みの物を作るのが難しくなっている。	ユニット内のキッチンで食事の準備をしている。配膳や片付けなどは利用者と職員が一緒に行っている。通常は、献立が決まっているが、行事食やおやつなど利用者の嗜好に合わせ調理することもある。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態、量にし提供するようにしている。検食簿を毎食記入し、献立はバランスよく提供できるように配慮されている。水分チェック表を記入し水分摂取量を確保出来る様に支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている一人一人の横に付き 義歯の洗浄 又、洗い残しがある場合はお手伝いするようにしている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつ排泄チェック表を付け、排泄パターンを把握する。それを元に習慣を活かした誘導を行う事で、失敗やオムツの使用を減らすよう努めている。	事業所の方針として、できるだけトイレでの排泄を心掛けるようにしている。夜間もポータブルトイレを活用するなど、おむつに頼らないようにしている。リハビリパンツから布パンツへの改善にも取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて排便の間隔を把握する。水分、食物繊維の多い食べ物を積極的に取り入れるなど工夫している。又、軽い運動を行う様に促す。それでも便秘の時には主治医に相談し服薬等でコントロールしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週4日入浴日を設けているが、本人の希望があれば対応可能。便失禁などがある時は入浴日でない日も 行う様にしている	毎日、日勤帯の時間の中で、お好みの時間で入浴できる支援体制をとっている。入浴を嫌がる利用者も時間を置いたり、声掛けの工夫を行い、無理強いせず本人のペースで入浴できるよう努めている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理強いせず、本人の過ごしたい様一日を送れる様に配慮している。昼夜逆転、ADL低下を防ぐ為にも散歩やレクリエーション、体操の時間を確保している。就寝時間も特に決めておらず、本人の生活習慣に合わせている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情ファイルを作り、セット時や変更時は必ず目を通し把握に努める。それと共に薬専用の申し送り帳を作り周知に努めている。配薬の際には口腔ケア後日にち名前を読み、二人介助にて行い口の中に薬が残っていないかを確認 配薬チェック表にサインし誤薬防止に努めている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴等の情報収集に努め、それを活かし楽しみや役割を持って生活して頂けるように支援している。又、嗜好品も出来る限り続けていけるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には出来るだけ出かけられるように配慮している。遠方や普段行かないような場所の際は、家族と相談し出かけられるように支援する。	天気が良ければ散歩や庭先へ出られるようにしている。外食や外出は要望に応じて対応している。四季折々にドライブのレクリエーションなども行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある利用者はお小遣いを持ち、嗜好品等はそこから自分で支払いをしている。手持ちが難しい方も支払い時にお金を渡し自分で支払いが出来る様にしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には何時でも電話が出来る。手紙や年賀状、暑中見舞いのやり取りが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるような装飾をしたり、カーテンや壁紙は自然な色を使用している。	共用空間は整理整頓され、畑で咲いた花が生けられたり、利用者の作品や写真などが飾られ、安心して居心地よく過ごせるような雰囲気づくりに努めている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル、ソファがあり、思い思いにテレビを見たり、レクリエーションに参加したりしている。また、孤立しないように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室・短期利用の際には、危険物以外は使い慣れたものを置けるようにしている。本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	居室には馴染みのタンスが持ち込まれ、家族や外出時の思い出の写真などが飾られている。仏壇を持ち込んでいる方もおり、それぞれの事情に合わせた居室づくりができている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室や居室には分かるように張り紙をしており、各入口、ユニット内、施設内はバリアフリーになっており、自立した生活が送れる様に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
			○	③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「おあしすありた」の名の下に「穏やかな 気分で安心して信頼される素晴らしい介護 を目指す」というわかり易く親しみがある 理念を基に、地域・医療・福祉の連携を 行っている 来られた方にもわかり易いように玄関に貼 付している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の保育園・小学校・中学校・高校など 交流が持てるように様々なイベントを行っ ており、ＡＥＤの設置、子ども１１０番の 指定など地域に役立つ取り組みを行ってい る 避難訓練の際などは近隣の住民に参加を呼 び掛けている		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の教育機関へ発信と受け入れのため、 子ども達に福祉学習として場所の提供を行 っている また、その際には認知症の理解や施設のこ となど噛み砕いて説明し理解を深めて頂い ている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括センターの方や、民生委員の方等 参加して頂いた方の意見を基に、各ユニッ トで会議を行った際にスタッフへ報告、意 見交換を行い、サービスの見直しを行って いる		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の入居者が居られるため、定期的 に保護課へ連絡を取ったり、情報を提供し ている また、オムツサービスなど市町村のサービ スを積極的に取り入れている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針で、身体拘束は契約書にも記載した上で全面的に禁止にしている 見守りを徹底しており、危険と察知したら すぐに駆け寄り未然に防ぐ様にしている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者への声の掛け方や対応の仕方などをスタッフ同士で確認し合い防止に努めている		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状態などを考え、必要であると感じた場合などは話をし、活用できるように噛み砕いて説明している		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にも入居予定者や家族の取り巻く環境を確認し、見学をして頂いたり入居予定者の所まで面談に行っている 契約まで十分な時間をかけ、不安などを一つずつ解消し、わかり易く話している 解約や改定時もわかり易く説明をし納得して頂いている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族から出た意見や要望は小さなことでもユニット会議や運営推進会議で取り上げている また、出た意見を運営会議にて報告し、運営に反映できるようにしている		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関することも含めた意見を日常の勤務の合間やユニット会議などで常に聴くように心掛けている 出た意見は運営会議などで報告し活かせるよう取り組んでいる		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	パート職員の時給アップを行っている スタッフが希望する研修など積極的に参加できるように調整を行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	性別や年齢などを理由に採用を排除せず、介護や高齢者に対する熱意やその人の人柄、介護観を重視している 希望の研修には参加できるよう調整し、初任者研修の資格取得が出来るよう受講料の援助も行っている		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年1回は人権教育に関する外部研修に参加する様に心掛けて研修案内を注意してみる様にしており、申し込みを出来た際にはシフトに入れ込む様にしている		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフの経験や能力に合わせ外部の研修を受けれるようにしている 未資格者には初任者研修の資格取得が出来るよう受講料の援助も取り組んでいる		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区・早良区で結成した「いとのかい」を通じ、勉強会の開催に参加することが課題である あおしず系列の他の施設・同じ敷地内の他事業所との連携を大切にしている		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学や面談を行い、必要時などは病院に赴き情報収集をしながら不安を一つずつ解消している 居室が空室の場合には短期入居を勧め雰囲気を見てもらうよう努めている		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の時から気になることや不安などを傾聴し、何度も話し合いを行っている 寄り添える関係になるよう、常に耳を傾けている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時にしっかりと話を聴き、当事業所のケアマネに相談し意見を求めている		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、料理や掃除など色々な場面において、生活の知恵を教えて頂いている 手伝って頂いたときは、毎回の労いの言葉をかけている		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは気づいたことがあれば何でも連絡・相談を随時行ってる 海外在住の家族にはLINE等用いて柔軟な対応をすることにより、よりよい関係を築いている		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関しては制限せず、友人との外出もキーパーソンに確認をとり、許可が出れば行ってもらっている 病院受診やユニットの行事で外出した際は入居者の馴染みの場所に遠回りをしている		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが間に入り、ソファーにて一緒に時間を過ごして頂いている また、気の合う入居者同士居室の行き来もして頂いている		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも入院先や転居先に出向き、必要時は再度情報提供を行っている また、必要時は洗濯の代行も行っている		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	常に声を掛け、入居者と1対1でじっくりと話を聴いている 伝えるのが困難な入居者にはハイ・イエ等わかり易い答えが出来るようにまた、表情や態度をくみ取り、意向を把握している		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後にこれまでの生活歴や暮らし方、生活環境など、本人と家族に詳しく話を聴いている また、日々の生活の中で今までの暮らし等を会話や行動などで引き出している		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	必要な事柄だけでなく、些細な会話なども細かく申し送りをし、経過記録に残すことでスタッフ間で共有でき、一人一人の心身状態、現状の把握に努めている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人、家族、スタッフに話を聴き、それを基にアセスメントを詳細に記入することで、ニーズを上手く引き出せるようにしている 担当者が仮で介護計画を作成し、ユニット会議でスタッフの意見を参照することでより濃密な介護計画に仕上げていく		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録に日々の様子や状態を記入し、各担当者がスタッフ間の情報を詳細にアセスメントに記入することで入居者への対応や介護計画の見直しに活かしている		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のADLや家族からの要望、病気の状態に合った支援を行っている 食事などの細かな対応や、母体の送迎リハビリも一部の方を対象に行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容、教育機関と協働し、入居者が地域の子供たちと触れ親しむ環境を提供している		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院がない入居者には協力医療機関や往診が出来る病院を紹介している その中でご家族様や本人様がかかりたい病院を選んで頂いて受診している		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師と医療連携看護師と連携するために、情報共有の連携ノートを活用また、口頭で説明し入居者一人一人の状態を把握して頂いている また、随時相談することで、入居者もスタッフも安心して受診出来るよう支援している		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入退院時またはその期間中家族に了承してもらい、入居者の病状、退院後施設で入居者に必要なことについて一緒に主治医、看護師、家族と話し合いの場を設けている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化についての説明をしっかりと行っている 入居時やA D Lの低下や重度化した場合は早めに緊急時・終末期についての同意書を記入して頂いている その際は何度も話し合いを行い、家族が不安にならないようにかかりつけ医との話し合いを何度も行っている		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練の際にA E Dを使用した応急手当の仕方を行っている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日勤想定、夜勤想定 of 避難訓練を行っている		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ同士で声を掛け合い、プライバシーが保たれていない際は適宜注意を行っている 声掛けは特に配慮が必要な際は居室やトイレで他者の目に触れない場所に対応している		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、常に声掛けを行い、介助に同意いただけるか尋ねる様にスタッフに指導している事でスタッフ中心にならないように働きかけている 自己決定が難しい入居者には、ハイ・イエで簡単に答えられるように支援している		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人に合わせ入浴やレクなどその日の体調や気分などで無理強いせず、希望に沿って支援している		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	指輪やネックレスの装飾品を気にせずつけてもらったり、服を選ぶ際は入居者のその時の気分に合わせて支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単なテーブル拭き等お手伝いをして頂いている		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握し、足りない人などは、医師と看護師と相談の上カロリー範囲内の好きな飲み物などを提供している		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者により、毎食後する方と朝・夕のみの方がおり、その人に合わせて口腔ケアを支援している 週1回～2週1回訪問歯科で口腔のチェックをしてもらっている 月1度の松尾歯科の指導を受け、学んでいる		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックリストを参考にして、パターンを確認し、早め早めの誘導を行い、失禁を減らしている 介護計画を作成する際にリハビリパンツから布パンツへの変更など検討を行っている		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を把握するために、チェック表にて管理を行い、適宜下剤を使用している 排便コントロールが上手くいっていない入居者の家族の方に相談し、ヤクルトを購入して頂ける方には了解を得ている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人のその日の状態により、拒否があれば次の日にまわしたりと希望を聞いた上で支援している 個浴にて一人ずつゆっくり入浴して頂いている		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	小まめに訪室し、湿度や温度を確認することで入居者それぞれが心地良い居室になるように注意している 眠れない入居者には、傾聴したり温かい飲み物など提供して快眠できるよう支援している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時や受診後には必ず薬情ファイルを個別に記入することで、以前の薬の内容など理解しやすくなり、変化もわかり易くなっている 薬の内容によっては副作用なども記入し、気を付けることも理解しやすくなっている		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主治医に相談し、コーヒーやココアなど提供をしている スタッフが生活歴や嗜好品などの情報を把握することで、入居者に合った支援を提供している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の際はスタッフの意見だけでなく、どこに行きたいか、何を食べたいか聞き、行事などに活かしている		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し、紛失してもいい額をもって頂いている 嗜好品や日常に必要なものを購入するために、定額を家族からお預かりし、お小遣い帳に記載している 高額の物を購入する時は家族へ確認している		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ユニットの電話は入居者から申し出がある際は、いつでも使えるようにしている 家族や友人から電話が来た際は、極力入居者本人と代わっている 手紙のやり取りはないが、年賀状は出来るだけ手書きで書いて頂いている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、その日の天候・季節・時間によってカーテンや電気などで配慮している スタッフの体感でなく入居者の体感温度などに合わせ、一人一人が快適になるように管理している		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを2か所配置しており、そこで気の合った入居者が話している 独りになりたい際は居室でのんびり過ごして頂いている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は出来るだけ使い慣れた物や布団を持って来て頂いている 家族と写った写真や好きなぬいぐるみなどを配置している		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内はバリアフリーになっており、手すりを壁全面につけている 居室の配置や、リビングの机も歩きやすい配置にしている		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）		①ほぼ全ての家族と
			○	②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		①大いに増えている
				②少しずつ増えている
			○	③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域交流等を組み込んだ理念を作り、毎朝唱和しスタッフ全員に意識付けると共に実践に繋げる取り組みを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年2回の保育園との交流や、近隣の教育機関の研修、ボランティアを積極的に受け入れる。又、年1回開催するバザーには毎年地域の方々にお越し頂き交流を図っている。子供110番、応急手当普及員の常駐等地域に役立てる様な取り組みを行っている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、家族や地域の民生委員の方に認知症について話をしたり、応急手当普及員の常駐を通じて理解を広める取り組みを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括、民生委員、家族、（時折、他施設のスタッフ）に参加して頂き、利用者の状況や施設の行事、スタッフについて等の報告を行い、そこで出た意見をスタッフと共有し取り入れサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括や、保護課との連携。市主催の研修への参加を積極的に行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修に参加し、それを全職員に周知する。また、身体拘束排除についてのマニュアルをいつでも見れる所に置いている。ユニットでは、入り口に鈴を付ける等の工夫をし、施錠をしない、見守りを徹底し身体拘束の無いケアに取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修に参加し、それを全職員に周知している。また、ユニット会議でケアについて職員で話し合い、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を設けている。また、必要な際には関係者と話し合い支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明書の内容、グループホームについての説明を出来るだけ詳しく行い、質問等にじっくりと答える時間を設けている。料金改定など変更のあった際には、面会時、電話、文書などで理解を得る。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に、家族と情報交換、コミュニケーションを密に取り関係作りを行うことで、意見を言いやすい雰囲気づくりをしている。また、出た意見はすぐに職員間で共有し対応する。介護保険サービス苦情相談窓口のポスターを掲示し、意見を表せるように配慮している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者だけで決めるのではなく、ユニット会議等で職員の意見を聞き出し、運営に反映させるようにしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の勤務状態、努力を評価し時給のアップや役付を行うことにより、向上心、やりがいを持って働けるように努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	募集・採用にあたっては、性別や年齢等は判断材料とせず、本人のやる気や能力や人柄で判断する様にしている。働く職員もやりたい仕事や研修は可能な限り行かせ能力が発揮出来る様に配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者は人権についての研修や講習会に参加し、それを職員に伝える。又、常々ユニット会議等で利用者に対する人権の尊重について話をするようにしている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市、県の研修の情報を掲示し希望者には受講させる。また、一人一人の力量に応じて、必要と思われる研修には積極的に参加させる。その際は勤務扱いにする事で働きながら学びやすい環境を作る。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に積極的に参加することにより、そこで知り合った同業者と情報交換を行うようにする。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より、家族や関係者等に話を聞き情報収集に努め、出来る限り本人との面談を行う。初期には、こまめにコミュニケーションを取ることで信頼関係を築き安心した生活が送れるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前（見学時など）や、契約時に家族の意向を聞きサービスを開始する上での要望や不安な点等を聞きサービスを行う。面会時などには状況報告等を行い、コミュニケーションを図る事で良い関係作りが出来る様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から集めた情報を元に、その時必要なサービスを見極め支援出来る様努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人の立場に立って寄り添う介護を行うように心がけ、信頼し合える関係作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等で、本人と家族が触れ合えるきっかけ作りを積極的に行い、面会時の情報交換やこまめな状況報告等で共に本人を支えて行けるような関係作りに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から情報を貰ったり、知人の面会時にはゆっくり話が出来の様配慮する。行きたい場所があれば家族の協力を得、可能な限り叶えられるよう支援に努めている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係を把握し、トラブルにならないよう配慮しながら、なじみの関係作りが出来の様きっかけ作りを行う。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、バザー等の行事へのお誘いや面会などを行うことで関係を保って行ける様に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のコミュニケーションの中で希望や、意向を聞き出せるように努めている。また、聞き出せた希望を可能な限り叶えられるよう努めている。困難な場合には本人の立場に立って、本人本位で検討する。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族やケアマネから、生活歴、経過などの情報を収集し把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に状態観察を行い、一日の様子や心身状態やADLの現状の把握に努め、ケアに活かしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とは日頃のコミュニケーションから意見を聞き出し、ケアに活かす。家族とは面会時等に出来るだけ話をし、意見を聞く。又、主治医やスタッフと話をし、意見を取り入れた介護計画を立てるようにしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化があった際には経過記録に詳しく記録し、意見は申し送り帳に記入し、職員間で共有し検討している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃より本人と家族とのコミュニケーションを重視し、その時々ニーズに合わせて柔軟な支援を行える様に心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の医療機関の往診、訪問理美容、近隣の教育機関の訪問の受け入れなどを取り入れ安全で豊かな暮らしが出来る様に支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するなじみのかかりつけ医を受診出来る様に配慮している。かかりつけ医の受診、往診の際には情報交換を密に行っている。また、病状に合った医療機関の提案を行う事もある。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が勤務しており、その際には現状の報告を密に行っている。また、急変時等は24時間連絡が取れるようになっている。また、往診看護師にも対象利用者の報告を密に行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	日頃より病院関係者との連携を図り、入院した際にも安心して治療を受けられるように情報交換を行っている。入院した際にも病院関係者とこまめに連絡を取り合い出来る限り早期に退院できるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時や入居の際に看護師が常駐していないため、医療行為が出来ない、看取りケアは出来ない旨、事業所に出来る事を十分に説明し、納得したうえでの入居となっている。また、重度化した際には本人や家族や医師と連携を取り方針を話し合う。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正社員は応急手当普及員講習に全員行っている。（定期的に更新の為の講習有）パート職員も全員避難訓練の際やユニットでの勉強会にて応急手当講習を受けている。希望者は消防局の研修にも行かせている。緊急時マニュアル、利用者の状態をまとめたファイルを常備し急変時にはスムーズに対応出来るようにしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に日勤帯、夜勤帯を想定した避難訓練を行っている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格の尊重を重視し、常に自身の言葉かけについて振り返る機会を持つ。スタッフ間でもお互いに気付いた事は注意し合う。ユニット会議等でも全員で話し合い、プライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も必ず職員で決めるのではなく、本人の希望を最優先させるようにしている。また、自己決定の出来ない方は、表情や日頃の行動から読み取り対応するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせ介護をするように心がけている。希望される事があれば、その日の勤務の職員で話し合い、出来る限り叶えられるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服は出来るだけ本人に選んで頂く。月1回の理美容では希望される髪型にするように配慮し、欲しい衣服等あれば、一緒に買い物へ行き好きな物を選んで購入出来る様支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に合わせたお手伝いをして頂いている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事形態を考え提供している。検査簿を記入し偏りのない食事を提供できる様に心掛けている。また、水分チェック表を記入し一日の水分量が確保出来る様に努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、ケアしている。また、週1回の訪問歯科にて、口腔ケア、口腔内のチェックをして頂き、口腔ケアについてのアドバイスをもらうこともある。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやりハビリパンツなしで失敗を防げるか、個々の排せつパターンを知るため必要な方は排せつチェック表を付けている。それを元に、工夫して来る限り使用しないようにしている。使用していた方も、本人、家族、職員間で話し合い極力自立に向けた支援が出来る様に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排せつチェックにて排便の間隔を把握する。水分、食物繊維の多い食べ物を積極的に取り入れるなど工夫をする。また、歩行可能な方は散歩等軽い運動も行うように働きかけている。どうしても出ない際には主治医に相談する。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本は週3回だが、希望される際にはすぐに対応出来る様にしている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	何事も無理強いせず、休息したい時には居室やリビングにてゆっくりしてもらっている。昼夜逆転を防ぐため散歩や、入浴、レクリエーションで活動する時間も設けている。就寝時間も特に決めておらず、一人ひとりの習慣に合わせ安眠出来る様に支援している。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬情をまとめ、いつでも見れるようにしており、職員は必ず目を通し把握に努めている。服薬の際には必ず名前、服薬を確認し与薬した者がチェック表にサインをする。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や特技を活かし楽しみや役割を持って生活して頂けるように支援している。また、嗜好品に関しても出来る限り続けて行けるように配慮している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時には出来る限り出かけている。普段行けない場所に関しては、家族と話し合い、出かけられるように支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある利用者は、お小遣いを持たせて買い物の際にはそこから自分で支払いをしている。手持ちが難しい方も、出来るだけ支払いの際にはお金を渡し自分で支払いが出来る様に支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望されれば、いつでも電話が出来る様になっている。荷物等を送りたい場合は郵便局にお連れする。また、暑中見舞いや年賀状のやり取りが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すような装飾をしたり、カーテンやクロスなども自然な色のものを使用するようにしている。また、危険因子は取り除き移動しやすく生活しやすい環境作りを心がけている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルが3台あり、レクリエーションしている方達も居れば、一人でテレビを見る方も居る。思い思いに過ごしやすい雰囲気作りや、逆に孤独にならないように気配りをするように心がけている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、危険物以外は以前使われていた馴染みの家具を置けるようになっている。本人が居心地の良い空間になるように話しながら、空間作りを行っている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室や廊下には手すりがあり、バリアフリーになっていて安全に使用出来る様工夫してある。また、トイレや自分の居室もわかりやすくしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 （参考項目：11, 12）		①ほぼ全ての職員が
			○	②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が
			○	②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない